

陳舜臣さんを語る会通信

NO.127 Nov. 2024

発行 兵庫県明石市北朝霧丘2-8-34
橘雄三方「陳舜臣さんを語る会」

Tel.078-911-1671

編集 「陳舜臣さんを語る会通信」編集委員

発行日 2024年11月1日

<http://www.eonet.ne.jp/~yuzo/>

陳舜臣さん生誕地の特定作業、中間報告

陳舜臣さんの生誕地に記念碑を設置しようという動きがあります。それには、まず、生誕地の特定が必要です。このことについて、現在、資料を整理し、多少の調査を行なっております。その中間報告をいたします。中間報告としておりますが、最終報告になるかも知れません。
(編集委員 橘雄三)

1. 陳舜臣作品に見える生誕地記述 下線は編集委員の加筆

【『道半ば』（集英社）p.13】

私の記憶は元町七丁目から始まる。あるいはここが私の生家かもしれない。いまはもう道路になっている。旧三越百貨店のならびの家で、むかいは酒造会社の倉庫であった。それが「白鶴」であったことは後年になって知った。空襲で焼けるまでは健在であり、焼けてから道路になったのである。

【『青雲の軸』（集英社文庫版）p.18】

都市計画でそのあたりはとりこわされて、広い道路になってしまったが、俊仁が生まれた家は空襲を免れて、つい最近まで存在していた。元町七丁目というから、三越百貨店の斜めむかいで、白鶴酒造の倉庫の裏がわにあっていた。

北に出ると、国鉄の線路が走っている。柵のこちら側はかなり広く、砂地などもあって子供たちの恰好の遊び場であった。

むろん、当時、汽車は高架ではなく、地べたを走っていたので、踏切りがあった。線路のすぐそばが子供の遊び場になるといのは、あまり車が通らなかったからであろう。



▲1935年ごろの三越神戸店（神戸新聞社提供）

元町通西出入口に店を構えていた。三越前に市電が見える。三越の開業は1926年。

【『私の履歴書②』（日本経済新聞社）】

そのころ私たちは元町七丁目に住んでいた。父は勤めが栄町か海岸通りの五丁目だから、元町七丁目には借家をさがしたのはとうぜんだったのだ。まだ鉄道は路面を走っていて、いたるところに踏み切りがあった。荷物はたいてい荷馬車ではこんでいた時代である。道路には馬糞のにおいがした。

私たち兄弟はそこにあった酒造会社の倉庫前に腰をおろし、忘れた日本語を思い出そうとけんめいだった。

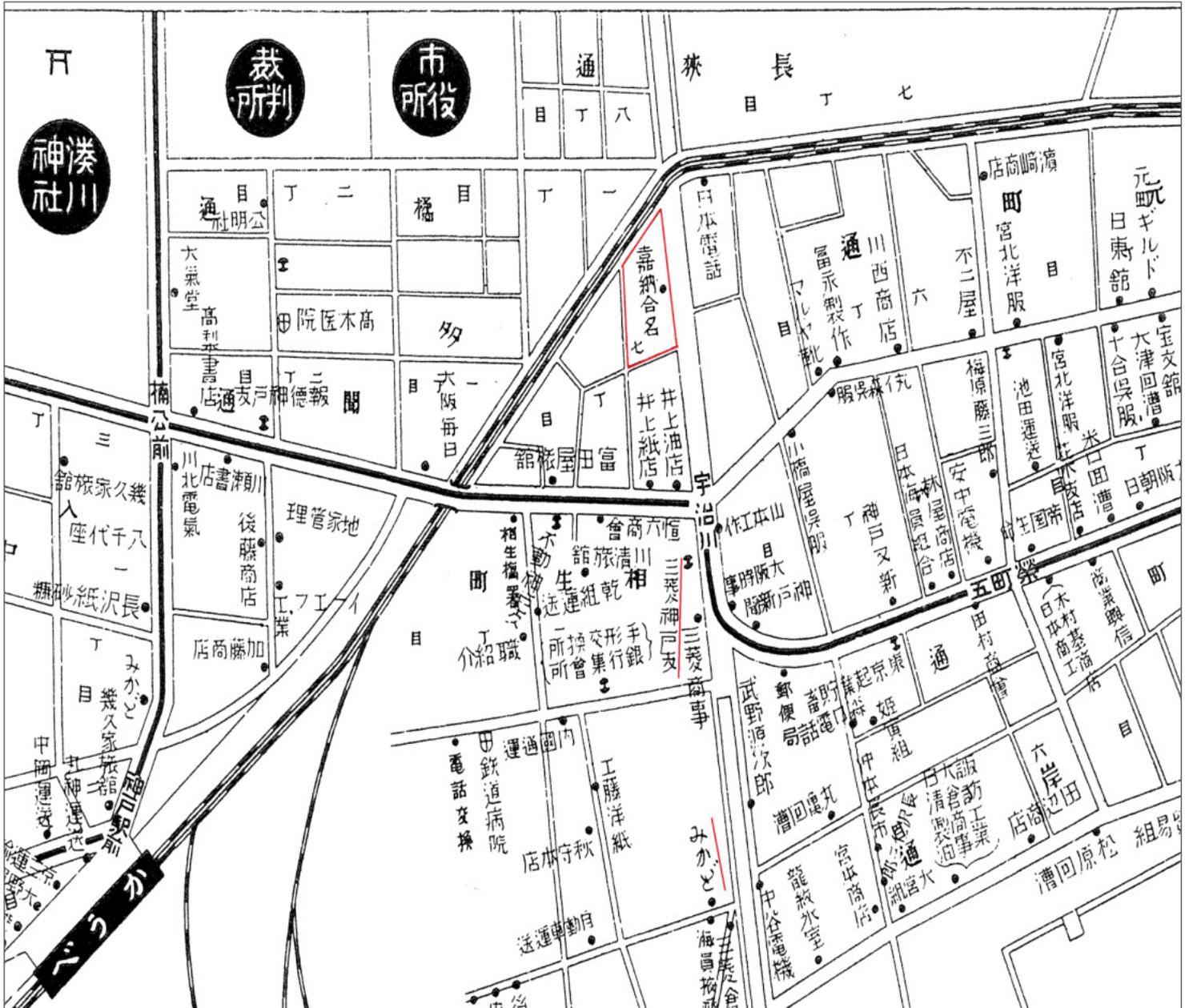
■陳舜臣さんは、上述元町七丁目の家に六年ほど住んだ。この後、中山手三丁目に引っ越す。華僑が多く住み「広東村」と呼ばれていた。ここで学齢を迎え、諏訪山小学校に入学する。ところが、中山手三丁目に居たのは数ヶ月で、北長狭四丁目へ引っ越す。そして、その次、海岸通五丁目のいわゆる「三色の家」で、戦争が激しくなるまで、十年ほど落ちつく。（『道半ば』p.28-30）

陳舜臣さんの著作に見える生誕地記述、上記三点以外にありましたらご教示願います。



▲ネットミュージアム兵庫文学館企画展示、「陳舜臣 神戸小夜曲」より。元町商店街西出入口に立つ陳舜臣さん。白い車の向こうが"きらら広場"。陳さんの生誕地、元町七丁目は画像に入っていない。もっと右手

2. 当時の地図に見える社名・店名表示



上の地図は『日本近代都市変遷地図集成』（1923年）のp. 155、「栄町及湊町附近分図」を部分拡大したものです。朱枠、朱傍線は編集委員の加筆。

《1. 「嘉納合名」とは白鶴のこと》

中央上部、赤枠で囲った箇所に「嘉納合名」とあります。嘉納合名会社は1897年から、1947年に白鶴酒造株式会社になるまで、白鶴の社名でした。

《2. 三越はまだありません》

この地図は1923年のもので、陳舜臣さんがショーウィンドウの赤い子供靴をのぞきに通った三越はまだありません。

- 1925年10月、元町デパート開業。
僅か半年で破綻
- ・ 1926年7月、破綻した元町デパートを継承して三越神戸分店開業。1984年閉業。

《3. 陳作品に見える生誕地特定のキーワード》

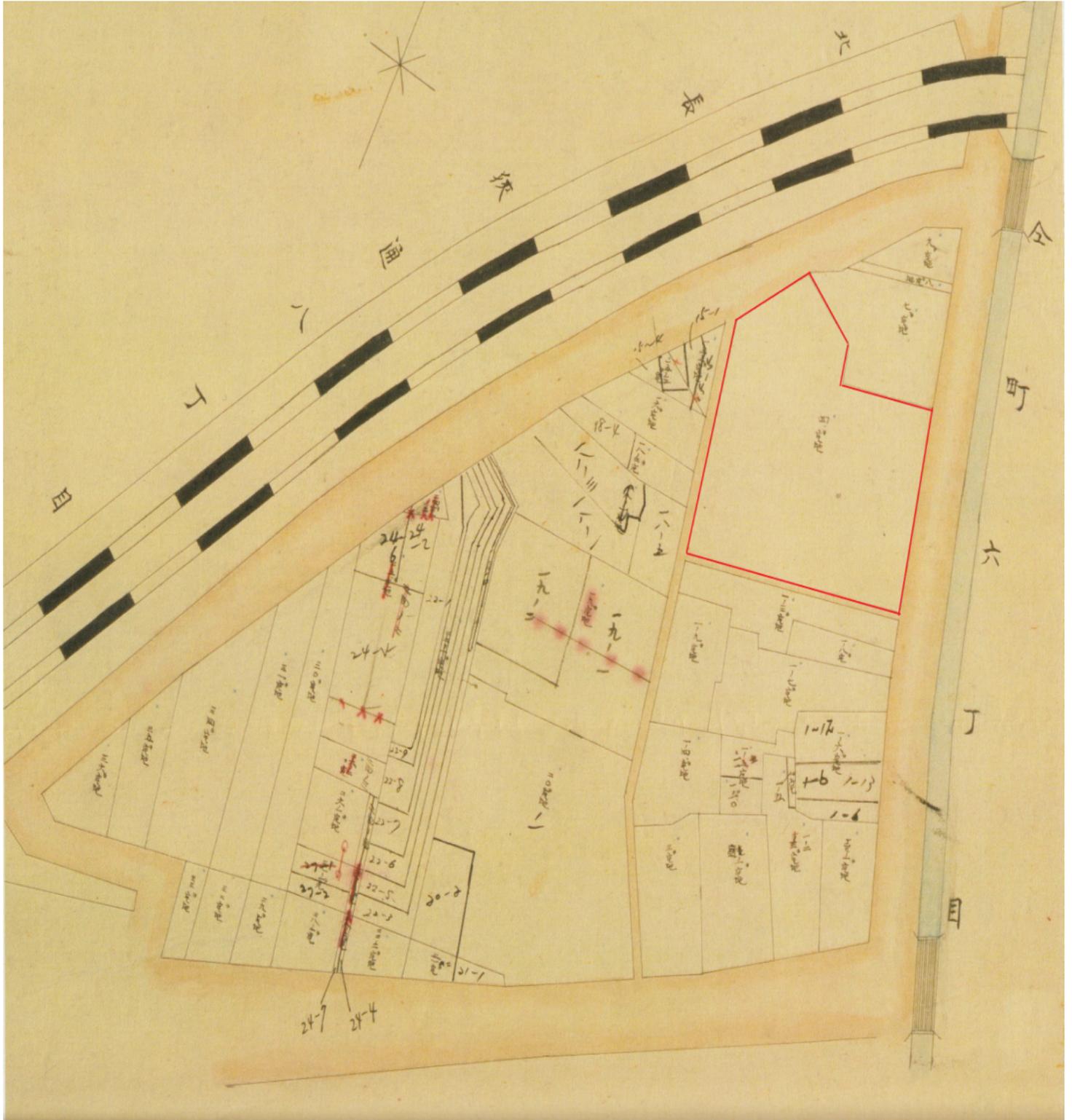
前ページ、「1. 陳舜臣作品に見える生誕地記述」で、『道半ば』『青雲の軸』『私の履歴書』すべてに共通するのは、「元町七丁目」という住所です。そして、近所に酒造会社の倉庫があったことも共通しており、その酒造会社を、『道半ば』『青雲の軸』では、「白鶴」と明示しています。

ただ、判断に困るのは、陳家と酒造会社の倉庫との位置関係です。

- ・ 『道半ば』 / 旧三越百貨店のならびの家で、むかいは酒造会社の倉庫であった。
- ・ 『青雲の軸』 / 三越百貨店の斜めむかいで、白鶴酒造の倉庫の裏がわにあたっていた。
- ・ 『私の履歴書』 / 私たち兄弟はそこにあった酒造会社の倉庫前に腰をおろし、…。

難問です。

4. 神戸地方法務局で複写した元町七丁目和紙公図(土地区画図)



【上掲、元町七丁目和紙公図(土地区画図)の補足説明】

薄く見えにくいですが、赤枠(編集委員加筆)の箇所が元町七丁目四番です。

また、宇治川が流れているのが興味深い。

法務局の担当者の説明では、この土地区画図のものは、「おそらく明治二十年代にできた後、昭和四十年くらいまで使われていた」、その間、「番地、区画は追加修正されたが、租税に関係のない河川はそのままにされていたのだろう」とのことです。

■兵庫県の「宇治川水系河川整備基本方針」(2017)や『神戸市史 本編解説』(1971年 p.469-471)から、宇治川は、明治30年代に暗渠になったと推察します。

5. 「嘉納合名」について 補足説明



2頁の地図の宇治川筋近辺拡大図



神戸支店

また神戸支店の屋上に「ハクツル」と「アサヒビール」が交互に出る電飾広告塔が建てられ、市中の相生橋や中突堤からも見る事ができた。当時としてはまだこの種の広告塔は大変珍しがられ、神戸名物の一つに数えられたものである。

支店のある宇治川筋近辺は、三菱銀行やミカドホテル・鈴木商店などのあるオフィス街で、当時の神戸の中心地であった。この年は大戦景気で国内は好景気に沸きわたっていたが、他面インフレと物価騰貴に見舞われ、殊に米価の高騰から米騒動が勃発した年でもあった。神戸での米騒動で鈴木商店が焼打ちにあったが、暴徒と化した群衆が次は酒屋を狙って押しかけるのではないかとの噂がたち、大騒ぎとなったことが語り伝えられている。

神戸支店の開設 神戸方面での白鶴直売店として、大正六年二月、神戸市元町一丁目穴門筋で、西村蘭更堂の真向いに

まず出張所を設けた。この建物は店舗というより荷扱いの倉庫であって、翌七年十月二十三日に元町七

丁目四番地に新築した倉庫付きの事務所へ移転した。これが神戸支店である。

『白鶴二百三十年の歩み』
昭和五十二年十月十日 白鶴酒造株式会社発行

朱字、朱枠、朱傍線は編集委員の加筆



「鈴木商店本店跡地」碑道の向こうは中央郵便局

2頁、『日本近代都市変遷地図』上の表示、「嘉納合名」が、白鶴酒造株式会社の当時の社名であったことは既に述べました。上掲、『白鶴二百三十年』の記述は嘉納合名会社の神戸支店開設の箇所です。朱傍線の後半、「宇治川筋近辺は、三菱銀行やミカドホテル・鈴木商店などのあるオフィス街で、当時の神戸の中心地であった」とあります。ミカドホテルは、大正三年（一九一四）、鈴木商店の本社になりましたが、米騒動（大正七年）で全焼しました。従って一九二三年発行の『日本近代都市変遷地図』掲載、上掲部分の「みかど」が何を意味しているのか定かではありません。左は、ほぼ「みかど」の宇治川筋歩道に立つ「鈴木商店本店跡地」碑。編集委員撮影。

『白鶴二百三十年の歩み』補足

6. 生誕地関連事項、いくつかの補足

《1. 子供のころ、宇治川は既に暗渠だった》

以下は、兵庫県の「宇治川水系河川整備基本方針」(2017)からの抜粋です。下線は編集委員の加筆。

宇治川は河口から約0.9kmの橋橋までの区間は暗渠となっている。神戸港開港に伴う都市基盤整備や市街地の拡大とともに改修が進められ、特に下流部は、道路用地を確保する必要から河川上部に蓋を掛け、暗渠区間として整備されてきた。

その後、神戸・阪神地区に未曾有の被害をもたらした昭和13年7月の阪神大水害を契機として、砂防計画と併せて河川改修計画が立案され、橋橋より上流については、…。(中略)

一方、橋橋より下流は、従来の覆蓋による暗渠構造を圧力暗渠構造に改修すべく、昭和36年から県による中小河川改修事業に着手し、橋橋付近の沈砂池を含め、昭和46年に完成した。

■上掲記述並びに1971年発行『神戸市史 本編解説』(p. 469-471)から、陳舜臣さんが子供の頃、宇治川はすでに暗渠だったと推察します。



上流から下流を見る 正面奥、橋橋の向こうが暗渠
編集委員撮影

《2. 国鉄(省線)の高架化工事、真っ最中》

昭和初期の神戸は、鉄道がまちのなかを走っていた。鉄道が高架線となり、路面を走らなくなったのは、私が小学校二年生ごろのことであった。高架線化の工事は、大工事であり、そのころは町じゅうが埃だらけで、騒音もひどかったのである。当時は鉄道省の管轄で、省線と呼んでいたようだ。(『道半ば』p. 13)



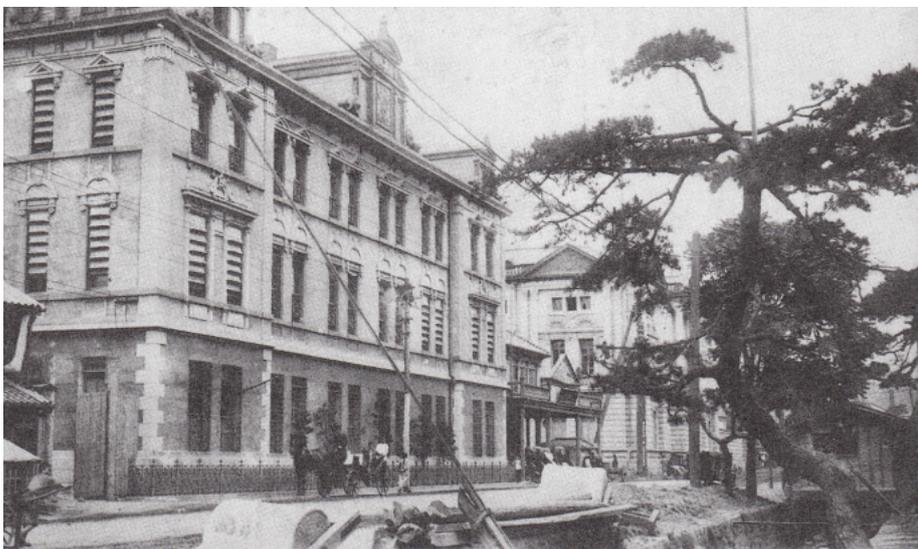
上の画像は、「駅が開業する前の、高架完成間もない国鉄元町駅(昭和6~7年)」(兼先勤著『神戸街角今昔』2013年発行)。

高架竣工は昭和6年(1931)。従って、陳舜臣さんの元町七丁目時代は工事真っ最中で、附近は「町じゅうが埃だらけで、騒音もひどかった」のだ。

■ついでに市電についても一言ふれておきます。

1910 神戸電気鉄道会社により春日野道~兵庫駅前間開通。陳舜臣さん宅附近の停留所は「宇治川」

1917 神戸市に買収され市電となる。



明治43年(1910)以前の宇治川筋。手前はミカドホテル、松影に三菱銀行神戸支店

《3. 宇治川筋に建つミカドホテル》

左の画像は、『元町懐古写真集「道」』(二〇〇六 元町一番街商店街振興組合)からの転載です。

陳舜臣さんの子供時代よりすこし古いのですが、『白鶴二百三十年の歩み』の記述「宇治川筋近辺は、三菱銀行やミカドホテル・鈴木商店などのあるオフィス街で、当時の神戸の中心地であった」の雰囲気を感じ取って下さい。